豊田工業高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	インターンシップ

科目基礎情報

科目番号	92511	科目区分	専門 / 選択
授業形態	実習	単位の種別と単位数	学修単位: 4
開設学科	建設工学専攻A	対象学年	専1
開設期	通年	週時間数	前期:6 後期:6
教科書/教材	特に指定しない		
担当教員	山田 耕司		

到達目標

(ア)実習配属先の業務内容を，組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。
(イ)配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。
(ウ)実務作業内容と成果を要領よく文書でまとめることができる。
(エ)実習を通して気がついた点，自己の反省すべき点を指摘することができる。
(オ)実習内容，自己の習得した事柄を，写真や図表などの視聴覚教材等を用いて口頭で説明することができる。
(カ)実習を通して考えた「技術者に求められる倫理（すべきこと，すべきでないこと）」を他人に説明できる。

ルーブリック

	最低限の到達レベルの目安(優)	最低限の到達レベルの目安(良)	最低限の到達レベルの目安(不可)
評価項目(ア)(イ)(エ)	実習配属先の業務内容を理解し、指示にしたがって安全に作業し、自己改善ができる。	実習配属先の業務内容を理解し、指示にしたがって安全に作業することができる。	実習配属先の業務内容を理解し、指示にしたがって安全に作業することができない。
評価項目(ウ)(オ)	実務作業内容と成果を要領よく文書でまとめ、適切に説明することができる。	実務作業内容と成果を要領よく文書でまとめ、説明することができる。	実務作業内容と成果を要領よく文書でまとめ、説明することができない。
評価項目(カ)	「技術者に求められる倫理（すべきこと，すべきでないこと）」を他人に適切に説明できる。	「技術者に求められる倫理（すべきこと，すべきでないこと）」を他人に説明できる。	「技術者に求められる倫理（すべきこと，すべきでないこと）」を他人に説明できない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 B3 建築分野の実社会に必要で役立つ知識や技術を応用して問題を解決する能力を修得する。
学習・教育到達度目標 C1 実験・実習を通して、計測技術やデータ分析法、報告書作成能力を修得する。
学習・教育到達度目標 E2 誠実かつ信頼される技術者としての誇りと責任感を修得する。
JABEE b 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任
JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力
本校教育目標 ① ものづくり能力
本校教育目標 ③ 問題解決能力
本校教育目標 ⑤ 技術者倫理

教育方法等

概要	建築関連の一般企業や，公社公団を含めた国や地方自治体での職場体験を通して，先進技術や社会の中での技術者としてのあり方を学ぶ。技術上の側面では，教室では学ぶ機会の少ない工学理論の技術への応用，実作業を通して初めてわかる設計や施工上の難しさ，興味深さを習得する。また，短期間ではあるが，実習配属先で実際に業務に携わることにより，社会の一員としての自覚と責任を体得することを目的とする。なお，建築学科では，建築に関係する施工管理，設計，行政，研究など幅広い校外実習先が用意されている。実習中は実務内容を理解し，実際に実務あるいは実務補助を行う。実習終了後，報告書と口頭によるプレゼンテーションにより，実習内容を要領よくまとめて報告する。
授業の進め方・方法	受講生は，実習配属先の担当者より指導を受け，自ら主体的に与えられたテーマに取り組む。成果は，概要集にまとめ，さらに教職員ならびに学生の前で研究成果を発表する。（授業内容・方法は以下を参照）
注意点	建築学科の実習先は、建設業、設計会社、官公庁、建設系製造業などに大別される。実習先の違いにより実習内容に差異はあるが、実務内容を理解し、実際に実務あるいは実務補助を行うこと。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	実習配属先の業務内容の把握：技術的側面と組織全体での業務役割の理解	実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指
		2週	実習配属先の業務内容の把握：技術的側面と組織全体での業務役割の理解	実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。
		3週	実務作業：設計、施工管理、積算、製造等および日報（実務から修得した事柄を含む）の作成	実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。
		4週	実務作業：設計、施工管理、積算、製造等および日報（実務から修得した事柄を含む）の作成	実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。
		5週	実務作業：設計、施工管理、積算、製造等および日報（実務から修得した事柄を含む）の作成	実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。
		6週	実務作業：設計、施工管理、積算、製造等および日報（実務から修得した事柄を含む）の作成	実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。
		7週	実務作業：設計、施工管理、積算、製造等および日報（実務から修得した事柄を含む）の作成	実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。

		8週	実務作業：設計、施工管理、積算、製造等および日報（実務から修得した事柄を含む）の作成	実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。
	2ndQ	9週	実務作業：設計、施工管理、積算、製造等および日報（実務から修得した事柄を含む）の作成	実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。
		10週	実務作業：設計、施工管理、積算、製造等および日報（実務から修得した事柄を含む）の作成	実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。
		11週	実務作業：設計、施工管理、積算、製造等および日報（実務から修得した事柄を含む）の作成	実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。
		12週	実務作業：設計、施工管理、積算、製造等および日報（実務から修得した事柄を含む）の作成	実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。
		13週	実務作業：設計、施工管理、積算、製造等および日報（実務から修得した事柄を含む）の作成	実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。
		14週	実務作業：設計、施工管理、積算、製造等および日報（実務から修得した事柄を含む）の作成	実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。
		15週	実務作業：設計、施工管理、積算、製造等および日報（実務から修得した事柄を含む）の作成	実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。
		16週		
後期	3rdQ	1週	実務作業：設計、施工管理、積算、製造等および日報（実務から修得した事柄を含む）の作成	実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。
		2週	実務作業：設計、施工管理、積算、製造等および日報（実務から修得した事柄を含む）の作成	実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。
		3週	実務作業：設計、施工管理、積算、製造等および日報（実務から修得した事柄を含む）の作成	実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。
		4週	実務作業：設計、施工管理、積算、製造等および日報（実務から修得した事柄を含む）の作成	実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。
		5週	実務作業：設計、施工管理、積算、製造等および日報（実務から修得した事柄を含む）の作成	実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。
		6週	実務作業：設計、施工管理、積算、製造等および日報（実務から修得した事柄を含む）の作成	実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。
		7週	実務作業：設計、施工管理、積算、製造等および日報（実務から修得した事柄を含む）の作成	実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。
		8週	実務作業：設計、施工管理、積算、製造等および日報（実務から修得した事柄を含む）の作成	実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。
	4thQ	9週	実務作業：設計、施工管理、積算、製造等および日報（実務から修得した事柄を含む）の作成	実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。
		10週	実務作業：設計、施工管理、積算、製造等および日報（実務から修得した事柄を含む）の作成	実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。
		11週	実務作業：設計、施工管理、積算、製造等および日報（実務から修得した事柄を含む）の作成	実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。
		12週	実務作業：設計、施工管理、積算、製造等および日報（実務から修得した事柄を含む）の作成	実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。
		13週	実務作業：設計、施工管理、積算、製造等および日報（実務から修得した事柄を含む）の作成	実務作業内容と成果を要領よく文書でまとめることができる。 実習を通して気がついた点、自己の反省すべき点を指摘することができる

		14週	実習報告会でのプレゼンテーション：上記(2)−(4)の内容をまとめ，限られた時間内で視聴覚教材等を用いての説明会の　　実施	実習を通して気がついた点、自己の反省すべき点を指摘することができる 実習内容、自己の習得した事柄を、写真や図表などの視聴覚教材等を用いて口頭で説明することができる
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	実習内容	報告書	発表会	合計
総合評価割合	40	30	30	100
分野横断的能力	40	30	30	100